

永原学園地域子育て支援センター

## さんこう・ほぼらだよ!

令和8年7月発行・第230号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL:0952-31-6877



### 7月と8月の「子育て支援事業」のお知らせ

#### ① 実施日

- ・7月1日(水) 東与賀よかよかサークル(東与賀保健福祉センター)
- ・7月9日(木) 高木瀬あいあいサークル(高木瀬公民館)
- ・7月14日(火) セルフケア講座※
- ・7月16日(木) 分園で遊ぼう※
- ・7月21日(火) 分園で遊ぼう※
- ・7月22日(水) 分園で遊ぼう※
- ・7月28日(火) 赤ちゃんの日※
- ・7月30日(木) 赤ちゃんの日※
- ・8月18日(火) 分園で遊ぼう※
- ・8月20日(木) 分園で遊ぼう※
- ・8月25日(火) 赤ちゃんの日※
- ・8月27日(木) 若楠にこここサークル(若楠公民館)
- ・8月31日(月) 赤ちゃんの日※

※講座・分園で遊ぼう・赤ちゃんの日は事前申し込みが必要です。各先着5組です。

★分園で遊ぼう、赤ちゃんの日は水遊びコーナーがあります。(持ってくるもの:タオル、水遊び用おむつ、水着、お着替え等必要なもの)

★赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。

② 時間:10時~12時

③ 開催場所:三光保育園分園 PINO

④ 申し込み方法:「さんこう・ほぼら」HP

毎月1日10時より申し込み開始です。

住所:佐賀市多布施二丁目195-1

(どんどんの森辺り、飯盛内科さんの隣です。)



### ♪食育講座「親子クッキング」のお知らせ♪

対象年齢:3歳以上~小学生低学年

両日ともに、先着10組とさせていただきます。

日時:① 8月3日(月)・② 8月4日(火)

時間:10:00~13:00

場所:西九州大学佐賀キャンパス

メニュー:3日 ミニキッシュ・ロールサンド・オニオンスープ

ミニパフェ

4日 スパゲッティ・コーンスープ・オレンジゼリー

申し込み方法:7月1日10時から「さんこう・ほぼら」HP

西九州大学の学生達が優しくお料理を教えてください。

今年は外国から来た学生達もいます。異文化交流を行いながら親子クッキングを楽しんでみませんか!

### 少子化

先月、令和7年度の合計特殊出生率1.14と出生数671,236人という数字が発表されました。

全国の乳幼児施設、特に0歳から受け入れる保育園や認定こども園ではすぐにその現状が影響しています。小さな市町村では、1年間に2人、5人、20人等、極端な減少です。また、この少子化は多くのOECD諸国でも同様で、高所得国で指摘されている最近の傾向として、「良き親」のプレッシャーや徹底育児(intensive parenting)の拡大が子供のいない人生を選択する傾向にあるそうです。

一方、祖父母との同居も減少傾向にあり、地域の働き手不足等、高齢者が働く期間が長くなり、祖父母からのサポートは減少傾向にあるため、子育て支援制度の活用は進んでいます。

これらの現状は、子どもや子育てに関わる人の孤立や子どもの体験不足につながると危惧されています。

佐賀市の中心部にあるさんこうほぼらでは、20年程前から、地域のシニアの方々に集っていただき、交流する機会を作ってきました。この交流が子ども達の心に温かい体験として残っているのを実感しています。(三光保育園長)



### ♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

(受付時間:平日の9:30~17:00まで)

さんこう・ほぼら(園庭を含む)開放の時間帯について  
7月から10月までは三光保育園分園 PINOになります

【開園日】〇月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】09:00~12:30、13:30~16:00

※12:30~13:30 昼休み・準備の為に閉園

【お知らせ】

※熱中症指数が高い場合は、安全上中止します。

※園行事の為、ご利用できない場合があります。

※出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

※ご希望の場合は電話でお問い合わせください。

TEL:0952-97-5151

### 「シニアサロンほぼら」



子育て支援センター「さんこうほぼら」では、月に1回地域の方におこし頂き、楽しいひと時を過ごしています。

日時:7月7日(火)セタ会

9月17日(木)敬老の集い(場所:分園)

子育て便り

災害時における子どもの「こころのケア」

心理カウンセリング学科 助教 松本 麻希

近年、国内外において災害が後を絶ちません。様々ある災害の中でも、地震・津波・集中豪雨・河川氾濫といった、大規模な自然災害は、我々の生活の基盤に大きな影響を及ぼします。そして、生活面のみならず心身にも多様な影響をもたらします。

大規模災害時の『こころのケア』の重要性については、1995年の阪神淡路大震災後、我が国において社会的に広く認知されはじめ、そのノウハウも徐々に蓄積されてきています。

みなさんは、“こころの減災”という言葉聞いたことがありますか？もし、今、ここで、大きな災害が起きたら、皆さんはどのようにして、自分自身や家族そして我が子の、身の安全とこころを守っていきますか？

避難経路を確認・共有し、防災グッズなどの備えを日頃からおこない、身を守ることと同じように、災害時に起きやすい様々なこころの反応と対応について知っておくことも、被害を最小限に抑え、こころを守るための大切な備えとなります。今回は、「災害時におこりやすい子どもたちの様々な反応とその対応」について、いくつかご紹介したいと思います。

**【再現あそび(地震ごっこ、津波の絵など)】**

災害体験から少し経過して落ち着いてくると、「地震が来たぞ〜!」と言って、積み木を高く積み上げては壊したり、地震や津波の絵を描いたりする“再現遊び”を始めることがあります。これは、遊びを通して、こころのザワザワを表現し、自分なりに対処しようとしている自然な反応です。危険な遊びではない限り、叱ったり無理に止めさせたりせずに、「怖かったね」「びっくりしたね」などと、声をかけ、そばで見守ってください。次第に、遊びという表現を通して自分のこころの中におさめていきます。

**【赤ちゃん返り(指しゃぶり、夜尿、わがままや甘えなど)】**

急にべったりとくっついて離れられなくなったり、今まで一人で出来ていたことが出来なくなったりと、より幼い行動に戻ることがあります。この行動は、何が起きたのかを理解することが難しく、安心を求めようとする自然な反応です。「自分でできるでしょ!」と叱咤激励するのではなく、「そばにいるから大丈夫だよ」「一緒にやってみようか」と声をかけ、安心感をもてるよう温かく対応しましょう。

**【過剰適応(頑張りすぎる/よい子でいようとする)】**

他者を過剰に心配したり、周囲に気を遣いお世話をしたりと、自分のことを省みずに頑張りすぎる子もいます。これは、頑張ること(≡気を張ること)で自分に起こった現実(ザワザワした気持ち)から逃避しようとしている場合もあります。見守りつつも、その子なりのストレス発散の機会や場所を確保し、こころを休ませていくことも大切です。

